

かかみがはら

百科

Kakamigahara

Encyclopedia

かかみがはら百科 03
2022 | Vol.

特集 承久の乱における大豆戸の戦い	02
調査速報 各務原市域土地利用図の作成から	06
姿を現した鵜沼の大集落	08
金・銀で飾られた装飾付大刀を発見	09
事業報告 各務原市史編さん事業	10
企画展「川上貞奴と各務原」を終えて	12
古文書目録ボランティア事業	14
TOPICS ぼくらのまちの地下のまち	15
地芝居の昔と今	16

CONTENTS

特集

合戦の地は各務原！
承久の乱における

大豆戸の戦い

合戦の地は各務原！「大豆戸の戦い」

令和4年1月から放送が始まったNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」。小栗旬さん演じる主人公、北条義時の人生最後の戦いは、承久3年（一二二一）に起こった日本史上に残る大決戦「承久の乱」です。

この乱の勝敗を決定づけたともいえる「大豆戸（前渡）の戦い」。なぜ合戦の地が各務原市前渡だつたのか。その理由に迫ります。

鎌倉幕府は建保7年（一二一九）、三代将軍源実朝が暗殺され、将軍不在となっていました。幕府を従わせる好機と見た後鳥羽上皇は、承久3年（一二二一）4月、幕府の実権を握る執権北条義時の追討を決意し、京の都に兵を集めました。世に言う「承久の乱」の始まりです。

後鳥羽上皇挙兵の報告を受けた幕府は、北条政子の説得によって御家

人たちを味方につけました。承久3年5月21日、北条義時の息子泰時が鎌倉から出陣したことを受けて、関東の武士は次々と幕府軍に加わりま

した。幕府軍は、東海道軍の北条泰時・時房ら10万、東山道軍の武田信光ら5万、北陸道の北条泰時ら4万の軍勢に分かれ、京へ向けて進軍しました。対して後鳥羽上皇は、6月1日に幕府軍の出陣を知ります。総大将として藤原秀康に軍を編制させ、6月3日に秀康らは出陣しました。なお、上皇自身は京にとどまり、出陣はしませんでした。上皇に味方する京方の2万余りの軍勢は、木曽川中流域で東海道・東山道を進む幕府軍を迎えてしまった。後悔千万と云い残し自害。その立派な様に、敵も味方も涙したとい

う。京方軍は宇治川で再度防衛線を張るも再び敗れ、承久の乱は京へ攻め上った幕府軍の勝利に終わりました。



大豆戸に陣を張った京方の武士

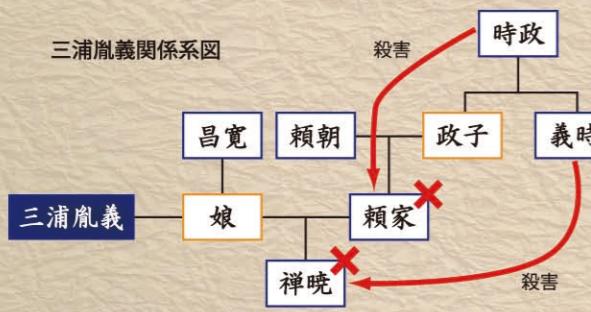
【藤原秀康】

河内国に広大な所領を持ち、上皇に仕えて破格の出世を遂げた京武者。京方の総大將に任命される。

大豆戸の戦いでは戦わず早々に退却。宇治川の戦いで敗北後、奈良方面に逃亡。10月に捕らえられ、弟秀澄とともに処刑された。

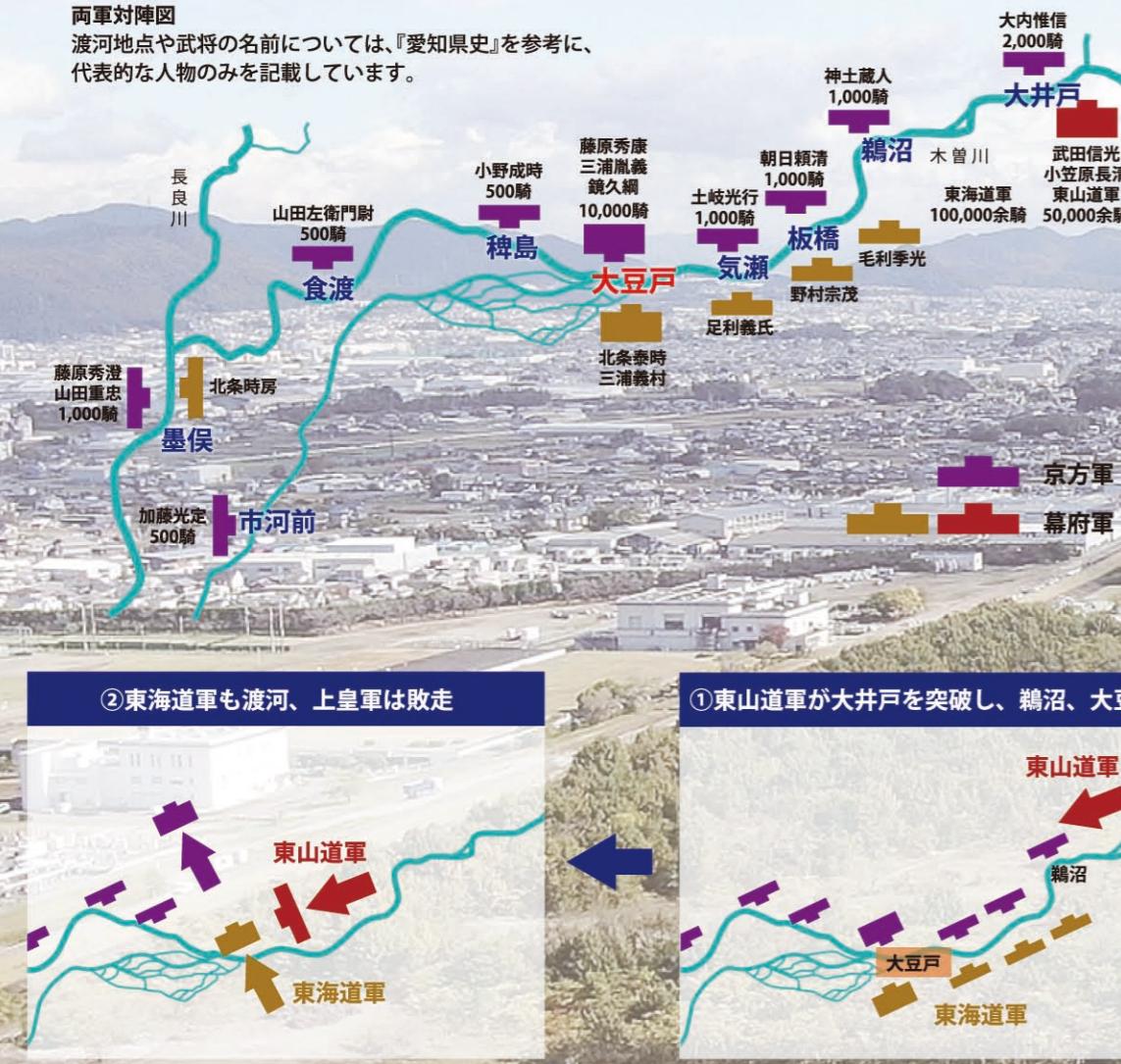
【三浦胤義】

三浦胤義の弟。胤義の妻は、もともと二代将軍頼家の妻であり、禅暁の母。頼家も禅暁も北条氏に殺されている。このような北条氏との遺恨から、藤原秀康の誘いに応じて京方になった。京方になつた後、上皇に最後の一戦を進言するも、上皇は「どこへでも行つてしまえ」と見捨てる。東寺にこもり、義村の軍勢と戦つたのち自害。



【鏡久綱】

佐々木四兄弟の長男、定綱の孫。大豆戸の戦いにおいて秀康らが戦わず敗走するのを尻目に、高い岸辺に自らの名前を書いた旗を立てて奮戦。「秀康のような臆病者に味方したために不甲斐ない戦をしてしまった、後悔千万」と云い残し自害。その立派な様に、敵も味方も涙したとい





前渡不動山の五輪塔



正法寺の三浦塚

各務原の五輪塔

前渡不動山の五輪塔
各務原の前渡不動山中腹には、「承久の乱合戦供養塔」と呼ばれる五輪塔が祀られています。

これらは、昭和初期の県道工事の際に前渡の各地から掘り出されたものです。地元の住民は、五輪塔を承久の乱での戦没者を供養したものだと考え、前渡の桃春院に集め、後に前渡不動山に移しました。現在も、毎年6月に法要が行われています。

正法寺の「三浦塚」

鵜沼小伊木町の正法寺の墓地にも五輪塔が並んでおり、「三浦塚」と呼ばれています。

正法寺周辺の小字地名は「三浦」といい、もともとは寺の西側の高台に五輪塔が円形に並べられていますが、昭和の中頃に現在地に移されました。

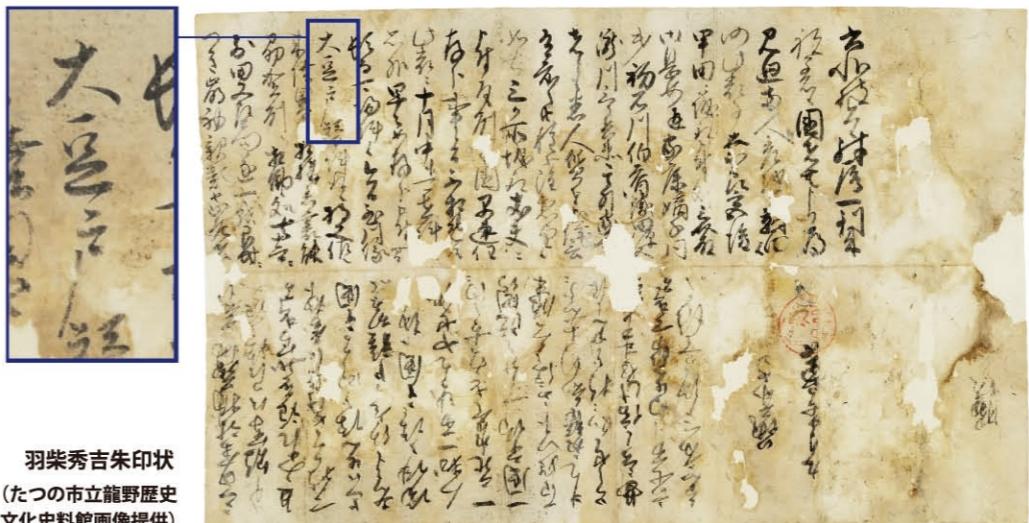
本堂の脇にある宝篋印塔には、「康暦初」(一三七九年)と記されているため、五輪塔もこれに近い時代のものと思われます。

各務原はなぜ合戦の地なのか

関ヶ原の戦いの前哨戦、岐阜城の戦いにおいて各務原は合戦の地になっています。新加納(那加新加納町)に砦を構えた西軍に対して、東軍は河田(川島河田町)で木曽川を渡り、新加納砦に攻め込みました。この戦いに勝利した東軍は、翌日岐阜の城を陥落させました。

なぜ、承久の乱や関ヶ原の戦いの前哨戦において、各務原が合戦の地となつたのでしょうか。

当時の川には橋もなく、渡河は大変な時代でした。そのため、合戦において攻められる側は、川を防衛線とすることが多くありました。しかし、承久の乱、岐阜城の戦いいずれも、数万の大軍が木曽川を渡っています。大豆戸、河田が浅瀬であり、攻撃側が渡河しやすい場所であったと言えます。さらに各務原の木曾川近くには、鵜沼の城山、伊木山、三井山など、見張り場として好都合な山々が並んでいます。守備側としては尾張から美濃へ攻め寄せる軍勢を迎撃する際、きわめて重要な場所であつたことがわかります。



羽柴秀吉朱印状
(たつの市立龍野歴史文化史料館画像提供)

承久の乱から363年後、安土桃山時代においても、大豆戸は戦略的に重要な地点になりました。この文書は、羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)から伊賀にいる家臣、脇坂安治に宛てた朱印状です。日付は9月17日、内容から天正12年(一五八四)のものであると推定されます。

この頃の秀吉は、小牧・長久手の戦いの真っ最中です。羽柴秀吉と徳川家康・織田信雄連合軍との戦いは、天正12年の3月から11月にかけての長い期間に及びました。両軍が濃尾平野でにらみ合いをしていたため、秀吉自身は前線を家臣に任せてたびたび移動しており、何度も大坂に戻つたり、有馬温泉へ湯治に行ったりしています。

文書の内容は、徳川家康や織田信雄との交渉内容、軍勢の配置状況、各地の合戦での勝利などが記されています。「今日は川縁の大豆戸に陣を移した」という記述もあります。

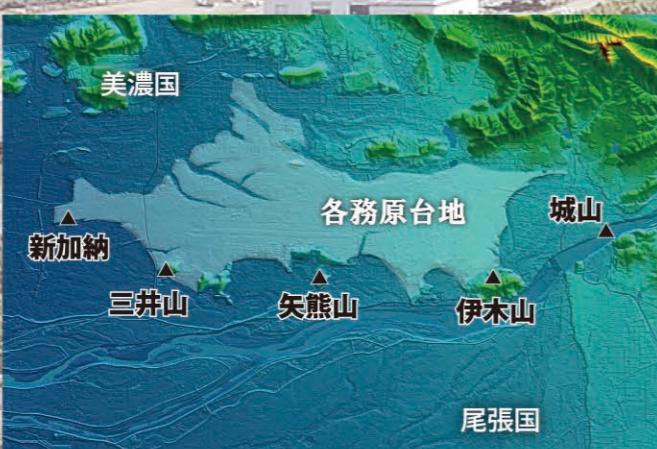
秀吉が小牧・長久手の戦いの中で陣を張った場所は、岐阜、犬山、鵜沼、木曽川の渡し場でもありました。秀吉の時代でも、陣を張るにふさわります。また、前渡村は江戸時代は約1000石の大きな村であります。また、前渡村は江戸時代でも、陣を張るにふさわります。

秀吉が小牧・長久手の戦いの中で陣を張ったこと、同様の理由からも、秀吉が小牧・長久手の戦いの中で陣を張つたと言えます。家康が小牧山に布陣したこと、同様の理由からも、秀吉が小牧・長久手の戦いの中で陣を張つたと言えるでしょう。

この朱印状を含む「龍野神社旧蔵文書」は、二〇一四年に兵庫県たつの市が旧蔵者から購入し、東京大学史料編纂所により修理が行われ、公開されたばかりの古文書群です。今後も全国各地で発見された古文書から、各務原に関する情報が得られる可能性もあります。



前渡不動山から小牧山を望む



戦乱の時代、各務原がしばしば合戦の地となつたのは、木曽川が東国と西国の「天下分け目の地」であり、各務原に木曽川の浅瀬があつたからであると言えるでしょう。(長谷健生)



「承久の乱と各務原」
パンフレット(A3・Z折)
歴史民俗資料館で無料配布中

各務原市域 土地利用図の作成から —水田利用を中心に—

◎「水田」の分布を中心みた 「土地利用図」

江戸時代、「御膳粉」という、徳川將軍をはじめ大奥の人たちに供される特別な米がありました。御膳粉の上納は、全国でも美濃の幕府領だけに課せられ、各務原市域では須衛村・各務村・古市場村・前野村・伊吹村の五村が行っています。この御膳粉に関する企画展を、令和4年度に予定しています。

そこで、御膳粉の耕作田や市域の土地利用全般の様子を知ることを主な目的として、明治24年の国作成の地図を基に、「土地利用色分け図」を作りました。土地利用の様子が、色分けを行うことによって捉えやすくなりました。水田を中心に、この時期の市域の土地について、紹介します。

水田は、木曽川の低位段丘(最も低い位置にある段丘)や市北部の境川流域、木曽川の旧氾濫原(洪水時に河水が溢れて氾濫する平野)に広がっていることが確認できます。また、市域北部の山地には、谷水の流れる谷筋に沿って枝のように水田が分布しています。市域の中心にある各務原台地においても水の流れる細い谷筋の一部に水田がありますが、台

地の大部分には水田はありません。御膳粉に関係する幕府領の五村は、市の北部の山から流れる境川流域の村です。水不足の心配がなく大きな水害も起りにくい地域ですが、年貢米「御膳粉」の生産が、この五村で行われたのではないかと思われます。御膳粉の上納が美濃地方の幕府領だけであった理由の分かる史料は、見つかっていません。

稻羽地域では、水田は木曽川の旧河道であった低い土地に網目状に分布しているのが特徴です。この水田を始め、この地域の土地利用に大きく関係している地域です。

河道であった低い土地に網目状に分布しているのが特徴です。この水田地域の島のように見える微高地は、「市街地」「畑」「草地・荒地」として利用されています。木曽川の流れが、



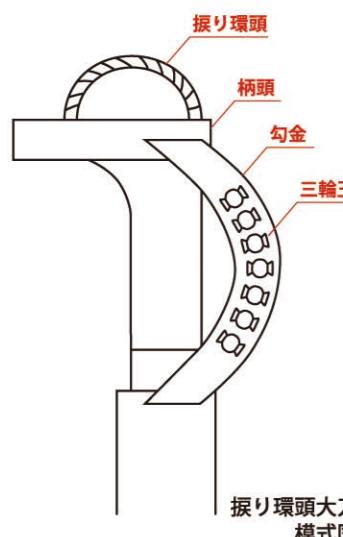
明治時代中頃までの土地利用は、水利の良し悪しが、大きく影響をっていたようです。目の前にある土地が、なぜ、このように利用されているのかを考えるのも、おもしろいことかもしれません。(杉山一博)

▼各務原台地の中心地域は、稻作を行うための水源が少なく、さまざまな耕作にも不向きな土地で、「草地・荒地」として区分されています。この土地は、江戸・明治時代は大砲練習場や秣場として使われていた広大な土地で、大正6年には飛行場が開設され、航空自衛隊岐阜基地として現在も使用されています。

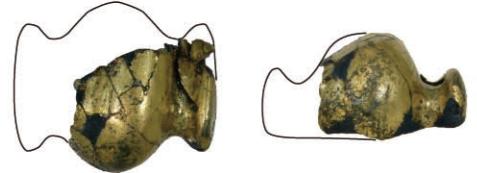
▼桑畠の黄色が目立つ鵜沼南部の古市場・大伊木地域は、木曽川が侵食した低位段丘の地域です。木曽川が運んできた砂礫が堆積した土地ですから土地はやせ、水持ちもよくなく、桑畠としか利用できなかったと思われます。木曽川の中の島であった川島地域も、広い桑畠があります。木曽川に近い地域の人たちの、生活や耕作の工夫・苦労が想像されます。

金・銀で飾られた 装飾付大刀を発見！

古墳から出土する大刀のうち、金銅や銀などで大刀の外装を装飾したものを「装飾付大刀」といいます。装飾性が高く、全国的に見ても出土数は多くないことから、所有者の社会的な地位や身分の高さを示す副葬品の一つと考えられています。その装飾付大刀が、那加山後町の山後2号墳から見つかりました。



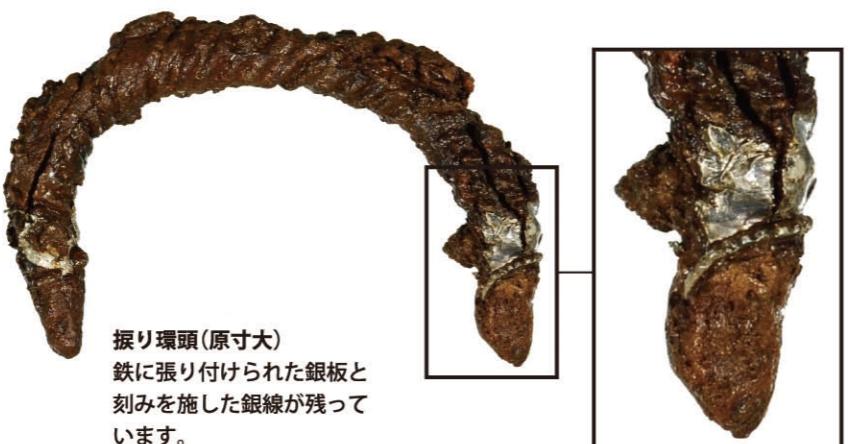
振り環頭大刀 模式図



三輪玉（原寸大）
半分近く欠損しています。横から見ると三つの山が連なっているように見えます。

振り環頭大刀の特徴の一つに、刀の長大化が挙げられます。そのため、実用ではなく儀礼用として使用されたともいわれています。

銀色に光る振り環頭と金色に輝く三輪玉で装飾された大刀を持つ山後2号墳の被葬者は、山後古墳群の中でも地位が高く、中心的な人物ではないかと思われます。（近藤美穂）



振り環頭(原寸大)
鉄に張り付けられた銀板と刻みを施した銀線が残っています。

山後2号墳の発掘調査

山後2号墳は、那加山後町に位置する直径約16mの円墳で、平成30年度に宅地開発に伴う発掘調査を行いました。6世紀後半に築造された古墳で、埋葬施設は横穴式石室を採用しています。石室内からは、祭祀に使用したとみられる須恵器や、装飾品である勾玉やガラス玉、馬具などの鉄製品が出土しました。

装飾付大刀は、被葬者を埋葬した玄室から見つかりました。刃部はすでに失われていましたが、装具の一部を確認しました。

装飾付大刀「振り環頭大刀」

出土した装具は、振り環頭と金銅装の三輪玉です。環頭部の形状から「振り環頭大刀」という種類の大刀であることが分かりました。

古代の集落を掘る

令和2年度の調査区で確認された多数の奈良・平安時代の建物跡は、今年度の調査区にも広がっており、鵜沼古市場遺跡D地区は住居や建物が数多く存在する広大な集落であったことが分かってきました。当時の人々が暮らしていた遺構は主に2種類、地面を掘り窪めた「縦穴建物」と柱を規則的に配置した「掘立柱建物」です。掘立柱建物のほうが現代の住居にも近い造りで、より新しいと思われますが、発掘調査の結果から時代的な差異は少なく、両者は目的によつて使い分けられたようです。

右下の写真を観察すると、発掘された縦穴建物、掘立柱建物とも、北東から南西の軸に沿つているようですが、幾重にも重なっているのは、同じ建物が何度も建て替えられたから

だと思われます。当時の人々が狭い土地を効率よく使うため、計画的に建物を配置し、当時の地形や道路に合わせた集落をつくっていたのかもしれません。

令和2年度に引き続き、今年度も第二期犬山東町線バイパス工事に伴う鵜沼古市場遺跡D地区の発掘調査を実施しました。同じ遺跡内の広大な面積の発掘調査は各務原市でも初めての機会で、調査面積は2年間で6000m以上、3年間の調査総面積は約100000mに達する予定です。

ただ思われます。当時の人々が狭い土地を効率よく使うため、計画的に建物を配置し、当時の地形や道路に合わせた集落をつくっていたのかもしれません。



豊穴建物
地面を掘り下げて床を造り、床から建てた柱と簡素な外壁で屋根を支える半地下式の建物です。奈良・平安時代では庶民の一般的な住宅様式でした。

掘立柱建物
地面から建てた柱と梁で屋根と外壁を支える地上式の建物で、奈良・平安時代では高床式のものは少なく、地面に庭などを敷いて床としていました。



7区(手前)・8区(奥)で確認された豊穴建物、掘立柱建物

平安時代の各務郡を探る

10世紀に編さんされた当時の百科全書である『和名類聚抄』によると、各務郡には「村国郷」「駅家郷」などの集落が存在したことが記述されています。発掘調査で見つかった大規模な遺構群は、そうした文献に登場する集落に該当する可能性も考えられます。

残された発掘調査と、その成果の整理作業・報告書作成を通して、古の鵜沼古市場遺跡の姿を明らかにしていきます。（戸崎憲一）

**写真が世相を映し出す**

写真の中には、当時の世相を映し出したものもたくさんあります。例

市内4ヶ所で巡回展を開催
市民の皆さんから寄せられた写真、あるいは資料館を整理して見つけた写真の中からいくつかピックアップして紹介する巡回展「写真で振り返るかみがはら」を開催中です。3月から5月にかけ市内4ヶ所で巡回展示をしています。昔の写真と、同じ場所の現在の写真を並べて展示することにより、大きく成長を遂げた各務原市を振り返ってもらおうというものです。

「おそ松くん」が登場するキャラクター「イヤミ」がびっくりしたときのギャグです。昭和30~40年代の子どもたちは、カメラを向けられると、このポーズをしたものです。実は著名人もシェー姿を写真に残しています。赤塚不二夫公式ウェブサイトによると、世に「三大シェー」と呼ばれているのは、幼少のころの浩宮様(現在の天皇陛下)、ジョン・

新市史は令和7年度刊行

『各務原市史 通史編 近世・近代・現代』が昭和62年に刊行されてから34年が経過しました。時代は昭和から平成、令和へと移り、各務原市の姿も大きく変化しています。市史編さん事業は、この間の市民生活を支えてきた産業、文化、生活様式、あるいは日常的な風景も含め記録に残し、市民の財産として後世に伝えていこうとするものです。

令和3年度は、委員8人(うち公募2人)で構成された「各務原市史編さん委員会」を7月に設立。教育委員会から「市史(編さん)の基本方針」について諮詢を受けた委員会は、会を2回開催し協議した結果を教育委員会に答申しました。

これによると、『新市史』は令和7年度に刊行予定、その記述対象は昭和62年度から令和6年度までとなっています。そして、編さんのコンセプトとして「ベッドタウンから選ばれるまちへの足跡」を挙げています。また、『新市史』とは別に、各務原



の自然の成り立ちから今日までの歴史を平易に記述し、誰にでも手に取ってもらえるような『普及版』を、令和5年度までに刊行する予定です。今回の市史編さん事業では、最終目標が『新市史』及び『普及版』の刊行となっています。しかし、書籍の刊行だけでなく、編さんのために集めた資料や調査結果の整理、保存、公開発信、活用などについても積極的に進めていきます。(稻川和宏)



旧「岐阜大学前」駅



現在の「市民公園前」駅

歴史民俗資料館では、令和3年度から市史編さん事業を進めています。その一環として、昭和から平成にかけての古い写真やビデオ、8ミリなどの動画を広く市民から募集。すでに多くの方が提供があり、デジタル化あるいは撮影場所や時期などの調査をしています。

各務原市史編さん事業

鵜沼東部の木曽川河畔エリアは、市にある国指定文化財4つのうち、「名勝 木曽川」と「重要文化財 旧川上家別邸(萬松園)」の2つがあり、国登録有形文化財の貞照寺もある賀(は)づく澤(さわ)なエリアです。この機会に、是非ご覧ください。

貞奴が各務原を終焉の地とした理由を追究することは、貞奴が愛した各務原の魅力を再発見することでもありました。

鵜沼東部の木曽川河畔エリアは、市にある国指定文化財4つのうち、「名勝 木曽川」と「重要文化財 旧川上家別邸(萬松園)」の2つがあり、国登録有形文化財の貞照寺もある賀(は)づく澤(さわ)なエリアです。この機会に、是非ご覧ください。



かかみがはら百科プラス No.2
『川上貞奴と各務原』パンフレット
(A4・16ページ)
歴史民俗資料館で無料配布中



動画は「かかみがはらの歴史事件簿 vol.7」として、各務原市文化財課 YouTube 公式チャンネルにて公開しています。



企画展では、女優引退後の貞奴の、実業家 福沢桃介の木曽川電力開発を陰で支えた後半生とともに、机や鞄など彼女の愛用した品々を紹介しました。

貞奴が愛した各務原

今回の企画展では、市内外から合計1,248人の方に来場いただきました。また、来場された皆様からは、「貞奴をより知ることができ、各務原の誇りに思います。」「とても充実した内容で、大変感動しました。」「貞奴の信じたことに突き進む女性としての尊敬すべき生き方に感動し、敬服しました。」「今回の企画展は、桃介と貞奴の情熱がよく表現されていました。」「企画展だけの展示では、もつたないくらいの内容でした。横山多賀治とからめた展示もよかったです。紹介文には、とても心被打られる言葉が並び、しっかりと読ませてもらいました。」等の感想をいただきました。

貞奴が各務原を終焉の地とした理由を追究することは、貞奴が愛した各務原の魅力を再発見することでもありました。

貞奴が愛した各務原の魅力を再発見していただければ、と思っています。

(菅見 隆司)

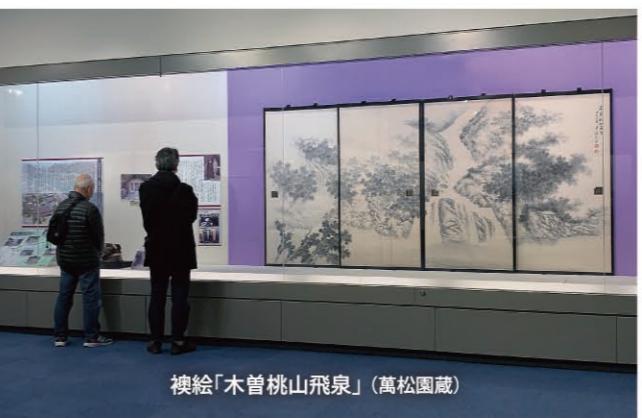


令和3年度企画展 「川上貞奴と各務原」を終えて

日本初の近代女優として知られる川上貞奴。生誕150年を迎えた今年度、記念事業として企画展「川上貞奴と各務原」を開催しました。

本企画展では、東京で生まれ育ち、欧米でも名声を博した日本初の近代女優川上貞奴が、なぜ各務原を終焉の地としたのかを、彼女の波瀾万丈な人生を辿りながら解き明かしていきました。

貞奴のアイコン
貞奴は貞照寺や萬松園等に、彼女の思いが感じられる絵や絵柄を残しています。「貞奴のアイコン」とも言えるものです。今回の企画展では、「貞奴のアイコン」を手がかりに、テーマに迫っていましたと考りました。



襖繪「木曽桃山飛泉」(萬松園蔵)



多賀治と次女眞子
(横山信治氏提供)



貞照寺山門の「桃」と「紅葉」



八靈験繪図「大井ダム完成の図」(成田山貞照寺蔵)



貞奴が多賀治に贈った直筆の掛け軸(横山信治氏蔵)

多賀治の孫の横山信治氏から提供いただいた日記や新聞スクランプからは、桃介や貞奴との交流の様子を窺い知ることができます。また、多賀治の次女が生まれたときに貞奴から贈られた直筆の掛け軸を、今回初公開資料として展示しました。

本企画展では、貞奴と交流があつた各務原ゆかりの人物についても調査し、「横山多賀治」を取り上げました。多賀治は桃介の懐刀と呼ばれた人物で、大井ダム建設では、総務係主任として国や県、地域との折衝に当たり、桃介を支えました。のちに初代蘇原町長となり、各務原発展の礎を築きました。

貞奴と交流があつた各務原ゆかりの人物

各務原市歴史民俗資料館では、今年度より市内古文書団体の方々の協力を得て「古文書目録ボランティア事業」を行っています。

当館は近年、多数の古文書史料の寄贈を受け、昭和59年の『各務原市史近世I・II 史料編』の刊行に当たって、「各務原市文書史料目録」を作成しました。しかし、この目録は文書の年号、タイトルのみで、目録として必要な文書の形態、作成者、宛名などの情報の記載がありませんでした。これら不足していた情報を含めた目録を完成させるために、高いレベルで活動されている古文書団体の方々のお力を借りする形で、本事業は始まりました。現在18人の方が登録され、月2回2時間の活動に参加していただいています。

作業では古文書の実物を手に取り、くずし字で書かれている古文書の内容を読み解き、必要事項をカードに記入します。

まず始めに、「安積家文書」に取り掛かりました。「安積家文書」は、近世初期～近代の文書約1300点の文書群です。古くは天正17年（一五六九年）「各務郡蘇原郷内野口村野帳」など、近世前期の検地帳や、慶長5年（一六〇〇年）「本田中務・井伊兵部連署禁制」といった関ヶ原の戦いに関係する禁制などの古文書も含まれています。

実際、生の古文書に触ると、虫食い、破損、焼けて変色した跡、紙のにおいなどから、長い年月が積み重なってきたことを実感します。新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言の影響で、活動を中断せざるを得ない期間もありましたが、年代の古いものから順に解説を進め、現在は、近代（明治時代）文書に取り掛かっています。近代文書に

古文書はすらすら解読できるものばかりではありません。読みづらい字は、お互いに意見を出し合いかねら協力して取り組んでいます。古文書に記された私たちの知らない各務原を見つけるたびに、古文書調査の重要性を実感しています。



古文書目録ボランティア事業

スタート！

ぼくらのまちの地下のまち

鵜沼古市場遺跡を知ろう！発掘体験＆現地説明会

8月7日 挖つてみよう、古代の遺跡 親子で体験発掘

11月6日 古代の遺跡を発掘しよう！

12月18日 鵜沼古市場遺跡D地区（第2次調査）現地説明会

また、遺物よく出たよ！

また、遺物よく出たよ！

見本：須恵器の大きな甕(部分)

見本：須恵器の大きな甕(部分)

発見した土器を水で丁寧に洗いました。土が流れ落ちて表面の模様が現れます。

発見した土器を水で丁寧に洗いました。土が流れ落ちて表面の模様が現れます。

豊穴建物内の土を掘り下げました。発見できたのは破片ばかりでしたが、スヌグ付いた土器もあり、約1200年前の人々の生活の痕跡に触れることができました。

豊穴建物内の土を掘り下げました。発見できたのは破片ばかりでしたが、スヌグ付いた土器もあり、約1200年前の人々の生活の痕跡に触れることができました。

当日は現場作業の様子も見学。遺構の確認と作図のため、ドローンを使って上空からの撮影も行いました。

たくさんの豊穴建物が発見された地区で、職員の解説に耳を傾ける参加者。小雪舞う悪天候の中でのご参加、ありがとうございました。

古窯跡群を除けば、市内最大の遺物量を誇るこの遺跡を、いずれは企画展で紹介できればと考えていますのでご期待ください。（村瀬美香子）

8ページに調査速報を掲載！



各務原を代表する伝統芸能といえば、各務おがせ町で毎年秋に行われる「村国座子供歌舞伎」が思い出されるでしょう。現在、市内に残る唯一の地芝居（素人役者による芝居）のかつての姿や現在を、今に残る記録や資料から探ります。

最古の地芝居の記録

現在、全国最多となる32の保存会があり、地芝居（歌舞伎）王国として知られる岐阜県。

その最古の記録については諸説あります。下呂市の久津八幡宮「正徳二年八月改祭礼日記」にみる宝永3年（1706）の能・狂言の記録を初出とする考えがあります。では、この各務原で、村人たちによる地芝居が行われるようになったのはいつごろでしょうか。

蘇原古市場町にある加佐美神社は、18世紀中頃まで若宮八幡宮と呼ばれていました。安永5年（1776）、若宮八幡宮の遷宮に際して、伊吹村や古市場村が俄狂言などを上演したとの記載があり、この記録が最古の例だと考えられています。

歌舞伎をはじめとする地芝居が、都市部から地方へと伝播し、根付いていった様子が分かります。

明治時代の地芝居

江戸時代中期には、各務原でも演じられるようになつた歌舞伎は、幕末から明治時代中頃にかけ最盛期を迎えます。それは、県内でこの時期に多くの歌舞伎舞台が建てられたことからも分かります。

村国座に関しては、幕末に発案され、明治10年に完成したとする『各務村史』の記載は、裏付けとなる史料を欠きますが、三省義校（現在の各務小学校）の仮校舎として明治9年（1876）に村国座を使用したとの記録もあります。この前後に建てられたことが推測できます。

新聞にみる地芝居

この明治中期の地芝居の姿を、当時の「岐阜日日新聞」（岐阜新聞の前身）に見ることができます。同紙が創刊した明治14年（1881）から29年までの記事には、各務原で行われています。

た芝居に関する記事が計35件確認できます（表参照）。

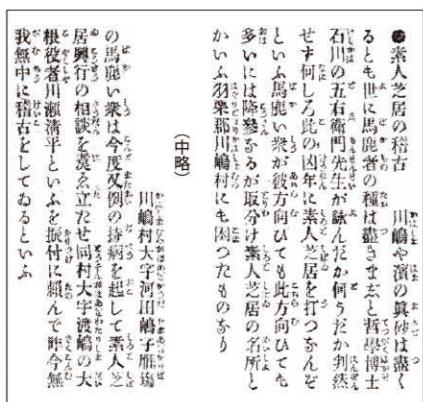
件数はあくまで新聞社による取材の数ですが、村国座（各務村）だけでなく、各務原全域で地芝居が行われていたことが分かります。また、この芝居には、地域の素人役者による地芝居と、興行を誘致する買芝居の両方が含まれており、芝居を楽しむ文化が各務原にしつかり根付いていたことが確認できます。

また、紙面では芝居に対して否定的な書きぶりも多く、芝居に興ずる若者を「馬鹿い衆（馬鹿な若い衆、といふ意味か）」などと呼ぶ記事も見られます。特に不作や風水害のあつた年には、芝居の上演を不謹慎として憚る風潮があったことが確認され、現在のように、芸能として社会から（少なくとも表面的には）評価されないなかつたことが窺えます。

民衆の娯楽として地域に根付いた地芝居は、戦後、急速に衰退します。岐阜日日新聞には、各務原の各地にある舞台や、舞台新設に関する記事も散見されますが、現存する市内



岐阜日日新聞（明治 24 年）



新聞記事（明治 26 年 10 月 26 日）

「（前略）この凶年に素人芝居を打つなんぞという馬鹿い衆が、あちら向いてもこちら向いても多いには降参なるが、とりわけ素人芝居の名所とかいう葉栗郡川嶋村にも困ったものなり（中略）川嶋村大字河田嶋字雁場の馬鹿い衆は、今度また例の持病を起して素人芝居興行の相談を煮え立たせ、同村大字渡島の大根役者・川瀬清平というを振付に頼んで昨今無我夢中に稽古をしているという明治 26 年は、10 月 14 日に大型台風による被害があった年。辛辣な言葉で地芝居を批判している。

の舞台は、村国座を含めわずか4棟。多くは空襲や老朽化、伊勢湾台風などの災害により姿を消しました。現在、市内に唯一残る村国座子供歌舞伎も、新型コロナウイルスとう「災害」による影響を受けています。令和2・3年度は一般非公開で、保存会内の発表のみという形で実施されました。もちろん、近年の少子高齢化や、社会や自治会のあり方の変化も、歌舞伎の伝承に大きく影響しています。

秋の例祭での奉納歌舞伎という、地芝居の古い形式を今に伝える村国座子供歌舞伎。市を代表する芸能を未来に伝えるため、今後も支援を続けていきます。（阪野陽介）

表. 新聞に登場する芝居関連記事の場所（）は件数

地域	村・字名		
那加（6）	西市場（2）	桐野（1）	山後（1）
	北洞（1）	岩地（1）	
稻羽（10）	下中屋村（2）	松本村（2）	前渡村（2）
	成清村（1）	大佐野村（1）	山脇村（1）
	三井村（1）		
蘇原（4）	伊飛島村（2）	三柿野村（1）	持田村（1）
鵜沼（12）	大伊木（1）	古市場（1）	二十軒（1）
	各務村*（6）	須衛村（3）	
川島（3）	小網島（1）	河田島（1）	渡島（1）

*各務村の記事はすべて村国座のもの



（写真右）令和3年の子供歌舞伎。関係者のみの上演だったため、恒例の「のし」も貼られない。中）感染防止のため、稽古・公演時とも、消毒や体温測定など健康管理を徹底（令和2年）。左）コロナ禍でも、自宅で村国座をウェブサイト上で自由に見ることができる「ミュージアム at HOME 360」のサービスをスタートした。



もっと

KIDS 知りたい!

KIDS いま・むかし

Q

これは何に使う道具だろう。
みんな、わかるかな？まこ
真弧

「真弧」という、聞きなれないこの道具。

考古学で土器などの図を書く、「実測」という作業に使います。

木のフレームの間には、細くてうすい竹の板が、なん百枚も
びっしり入っています。この真弧を土器などに押し当てるとき、カーブに合わせて板が
動いて、土器の形をそのまま写し取ることができます。

正確な図を書くことは、考古学の研究にはとても大切。

そのために、真弧はなくてはならない道具です。

細かい板が、形に合わせてスライドします。板は
やわらかい竹で、大切な土器などを傷つけません
※金属製の真弧もありますそのままの形や大きさで、方眼
紙に写し取ることができます中央図書館3階の「歴史ギャラリー」には、市内で出土した土器
や石器がたくさん展示されています。ぜひ見に来てください。
各務原市那加門前町 3-1-3 各務原市立中央図書館 3 階